

海岸漂着ごみ問題

伊勢湾や三河湾の沿岸には、流木などの自然系のごみに混じって、ペットボトルや食品トレーなどの“生活ごみ”が漂着し、散乱・堆積しています。「海岸漂着ごみ」は、美しい海岸の景観を損ねるだけでなく、漁業や海水浴などの海岸の利活用に支障をきたすとともに、海浜動植物の生育等への影響も心配されています。

海岸では、海岸を管理する県や市町村のほか、民間団体や地域の皆さんなどのボランティアによる清掃活動が行われていますが、一度きれいになっても、ごみは日々漂着することから、問題の解決にはいたっていません。

●景観の悪化

ペットボトルやプラスチック類などは、分解せずに砂浜に散乱し、海岸の美しい景観を損なっています。



●海水浴や漁業への影響

砂浜を埋め尽くす漂着ごみや、漁港内に入ってくる漂流ごみにより、海水浴や漁業活動への支障が生じています。



●危険なごみも落ちている

ガラスの破片、使用済みの注射器、薬品の入った容器など、触ると危険なごみも流れ着いています。



●海浜動植物への影響

細かく砕けて破片となったプラスチックや発泡スチロールを動物がアヤまって飲み込んだり、浜辺の植物が育つのを妨げるおそれがあります。



●回収・処理が困難

海岸管理者や民間団体、地域の皆さんの清掃活動により一度はきれいになった海岸でも、ごみは日々押し寄せ、しばらくするとまた元に戻ってしまいます。

